

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホームホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2-3		
自己評価作成日	令和7年1月7日	評価結果市町村受理日	令和7年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしい暮らしが出来るよう寄り添い
毎日を笑顔で過ごしていただく事を、職員で話し合いながら介助をしています。
虐待に結びつかないよう、職員同士で切磋琢磨し、安全で安心できるよう様々な視点で検討、実施しています。
利用者様、ご家族様にご満足いただいていると感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部が福祉事業の統括責任者を置いたことで、管理者の業務負担が軽減されている。
会議も合同で行なうなど、各事業所の管理者同士が連携しながら業務改善に取り組んでいる。
運営課題についても、全職員で話し合う事で工夫や協力関係が生まれている。看取りについては、不安を抱えながらもチームとなって実施した経験が、仕事のやりがいとモチベーションアップにつながっているとの職員の声を聴くことができた。終末期が近づいた利用者、食べたい物を食べさせてやりたいという家族の思いを受け止め、本人の様子を見ながら、出来る限りの支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域との関係を維持しながら、一人一人の利用者様に合わせたサービスの提供が出来るよう、常に管理者と職員がコミュニケーションを取りながら、検証・実施をしています	理念は、来訪者にも分かりやすいよう玄関ホールに掲げている。事務室にも掲示し、職員会議で理念に基づいた実践ができているかを再確認している。重要事項説明書に運営理念と方針を明示し、事業所の姿勢を周知しながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会の行事に職員・利用者様と参加、運営推進会議の声かけにて民生委員様や、区長様に参加して頂いています	事業所は住宅街の一角にあり、散歩時に住民から庭に招かれて交流することもある。年2回の清掃活動やグラウンドの草刈りに参加したり、地域で催される落語会への誘いもあり、徐々に地域との付き合いが戻りつつある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種連携の中で、病院・地域包括・町内役員・利用者様のご家族と参加して頂き、事業所だけでなく、会社の方向性や取組みを公開し、参加者様のご意見も活発に頂き、今後のサービス向上に活かしています	集会場で行っていた運営推進会議も、感染症対策が緩和され、現在は事業所2階で行っている。行政や地域包括支援センター、区長、民生委員、家族、さらに病院や訪問看護ステーションの看護師の参加があり、会議内容は議事録に残し、意見をサービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員や町内委員との連絡を取り、行事等への参加、行政との連絡も運営推進会議他、サービスに関しての方向性や指示をいただきよい協力関係になっています	市担当者とは、運営推進会議やケア会議で、事業所の活動状況や困難事例等について相談している。本部の統括役員が随時行政窓口に出掛け、事業所で必要な情報を共有し、協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、職員会議で研修や具体的な検証や一人一人の利用者様に対しての、適切なケアについて話し合っています	身体拘束適正化に関する検討会として、職員会議と併せて実施し、支援状況の検証と研修を行なっている。現在、6名の利用者がセンサーマットを使用しているが、ヒヤリハット事例もあり、検証しながらケア方法を工夫し、拘束しないケアに努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のアンケートを、職員会議等で定期的に行い、虐待防止委員会も毎月行っています 管理者は職員のサービスに対して常に目を配り、虐待に繋がらないようにし、職員のメンタルに対しての配慮も行っています	虐待防止委員会は、毎月、法人の統括責任者と各事業所から1名ずつ参加し、対面または書面にて開催している。各事業所が事例検討報告を行い、議事録をまとめている。職員セルフチェックを実施し、集計した内容を分析しながら虐待防止に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き、必要に応じて社協と協議し、適正かつ継続的な援助を受けられるようにしています		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様には、見学や契約内容についての説明を細かくし、疑問やご希望をお聞きして、納得・ご理解いただいてから契約をしています ご不明な点は、随時説明させていただきます		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議だけでなく、問題が発生した時等、ご家族様のご意見がいただける関係性を構築し、職員間での話し合い、外部連携の関係性も構築し運営に反映させるようにしています	ホープ便りには、往診日や会議日程、行事等の予定と共に、利用者の写真を掲載して家族に送付している。看護師からは、利用者の健康状態も報告している。介護認定調査に立ち合いたいとの家族の希望があったが、連絡ミスで実現出来なかったことを謝罪し、改善策を講じている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	福祉事業本部を設置し、施設間の横のつながりを深め、管理者の負担を軽くする取り組みをしています 全職員の意見が運営に反映されるよう、統括による施設訪問等を行っており、現場からの意見がよく聞こえるようになっています	毎月の職員会議は、全職員の出席を基本とし、パート職員や外国籍職員も参加している。会議では自由に意見が言える雰囲気浸透している。日頃から管理者は、職員の提案や意見等を聞きながら本部統括責任者に伝えており、速やかに改善された事例も多い。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	上記の様に、福祉事業本部を設置することで全体の状況、職員の勤務状況や努力が把握でき、シフトの問題解決や環境整備も進んでおり、職員の意識も向上していると感じています	本部が職員の勤務状況や個々の努力を把握し、円滑なシフト管理を行なっている。また、職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。休憩室が介護用品等で物置化している状況であり、休憩場所の工夫が課題となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足で研修も進んでいませんでしたが、職員の入社や移動で、少しですが余裕も出て来ていると思います 今後は研修や資格取得のサポートをしています	年間研修計画に沿って、毎月、研修を実施している。同法人事業所と合同で会議を開催することで互いにモチベーションを高め合いながら、資格取得や外部研修の受講を奨励し人材育成に努めている。介護福祉士をめざしている外国籍職員もあり、サポートを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内他施設の職員との交流(管理者、ケアマネ、看護師、介護士)や、今後は他事業所の職員との交流も進めていきたいです 提供する食事の試食会を行いました また、隣接施設との交流もはかって参ります		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、感謝し認め合うことで一緒に暮らしているという関係性を構築しています 利用者様の先輩としての教えを受け止め、尊敬することで介護される側ではなく、人生の先輩として共に時間を過ごす関係になっています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手く表現できない事も、日頃の関係性で職員がくみ取り、利用者様の希望や意向を職員同士で話し合いながら、それに沿うようにしています	利用者1人ひとりのアセスメント票を参考にしながら、日々の暮らしの中で利用者の思いを汲み取っている。家族からの情報も職員間で共有している。終末期の利用者に、食べたい物を食べさせてやりたい家族の思いに寄り添い、様子を見ながら対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者様一人一人のカンファレンスを行い、介護だけでなく医療面や家族様の意向も合わせて検討し、今後のサービス計画に反映させています。利用者様の体調等の変化にもすぐに対応できるよう連携しています	ケアマネジャーも現場に入り、利用者の状態を把握している。モニタリング記録をもとに、関係者の意見を集約して介護計画を作成している。サービス担当者会議は家族も交えて開催し、チームとなって利用者と家族の意向を反映させた介護計画作りを実践している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきを記録に残し、利用者様一人一人の申し送りノートでも職員間で情報共有しています 介護ソフト導入により、施設全体での情報交換が出来るよう進めています	生活支援記録はタブレット端末に記録している。利用者の希望や職員の気づき等は個別ノートに記録し、業務上の伝達事項は申し送りノートで情報を共有している。電子情報と紙ベースを上手く併用し、介護計画の見直しや実践に反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設が複数あるので、様々なニーズの把握ができ、施設全体(管理者)で話し合いながら、本部を中心に今までにとらわれることなく、柔軟な支援サービスができるよう進んでいます	専門医への受診は、家族から依頼があれば有償ではあるが、病院受診の送迎をサービスの一環として行っている。個人で必要とする物品購入や行政提出書類の代行等も、職員が柔軟に支援している。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェ等の地域での活動や地元のイベント等への参加を積極的に行い、参加により利用者様の心身の向上に向けて行きます 本部にて得た情報を、施設全体で共有し、参加についても協力しあっています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の把握と共に、連携している往診医とも情報を共有しており、更に専任看護師や新たに契約した訪問看護ステーションとの連携により利用者様の状況共有がスムーズになり関係性は向上しています	全利用者が協力医をかかりつけ医とし、定期的な往診を受けている。看護師を職員として配置し、訪問看護ステーションと連携を図りながら支援し、本人と家族の安心につなげている。年1回、利用者の誕生日に健康診断を実施している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、看護師が病院との情報交換に努め、ご家族様の相談にも対応しています 日頃からの連絡にて、看護師と病院との関係性に信頼関係もあります	緊急時には、訪問看護ステーションや協力医の判断を仰ぎ、入院時には、看護師が医療機関に情報を提供、家族と相談しながら支援している。医療機関及び家族と共に、早期退院に向けて話し合い、事業所への受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院とご家族様との話し合いから、看取り計画書を作成し病院との連携を図りながら、利用者様やご家族様にとっての最良な終末期を過ごしていただけるように、職員全体で取り組んでおります	重度化や看取り指針については、書面にて家族に説明している。利用者の状態変化に伴い、家族と話し合っている。夜間往診もあり、ほとんどの家族が事業所での看取りを希望している。看取り支援の貴重な経験が、職員のモチベーションアップにもなっている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を内部の研修や、消防署の研修にて情報を収集し、実際に行動できるようにしています AEDの設置・研修も行い、看護職員、訪問看護ステーションとの連携により24時間体制で急変や事故発生時に備えています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の避難場所としての意識を持ち、災害時における施設の行動指針を作成職員会議でも、災害に対しての研修やシュミレーションをしています	年2回の災害訓練を実施し、運営推進会議で報告している。災害時には、福祉避難所として市と協定を結び、駐車場を活用している。2階車椅子利用者は、非常階段からの避難を職員が工夫をしながら実施可能とし、安全な避難誘導の訓練に取り組んでいる。	災害用の飲料水等を備蓄する保管場所に苦慮している。地域のコンビニで購入した場合、保管を依頼できるか等、話し合っている。昨年の課題でもある、地域への協力体制も含めて、災害対策の強化に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて利用者様一人一人を尊重する、プライバシーを確保する話し合いを重ね、実際の介助でも人格の尊重や誇りを損ねないよう意識し合い、管理者だけでなく職員同士でも注意しあえる関係性の上でサービスを提供しています	年間研修計画にプライバシーの確保や接遇研修を組み入れ、利用者の人格尊重とプライバシーを損ねない対応についての理解と周知に努めている。入浴や排泄支援時には、特に羞恥心に配慮した対応を心掛け、職員同士で注意し合いながら、不快感を与えないケアに努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定を表現しやすい環境や信頼関係を築く事をしながら、希望を表現する事や自己決定が難しい利用者様には、気持ちをくみ取れるよう、細かな表情や表現を見落とさ無いようにしています			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや体操は皆様と一緒にの時もありますが、一人一人のやりたいことを楽しんでいただく時間も作り、希望に沿った一日を過ごしていただいています 散歩、塗り絵、お喋りなど、職員の見守りの元でゆっくりと過ごされています			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安心・安全に配慮した食事形態で、和やかな雰囲気の中召し上がっていただいています 準備や片付け等できる方には手伝っていただき、行事食やお誕生日のお祝いなど、工夫をこらしながら、楽しんでいただいています	食材納入業者を変更し、チルド配食方式の導入を運営推進会議で報告している。ムース食の試食も行っている。ご飯と汁物は事業所で作り、見映え良く小鉢に盛り付けて提供している。その日の献立はホールに掲示し、状態に合わせた食事形態で食事を楽しめるようにしている。行事食や誕生日の特別メニューもある。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好の偏りのある方には、家族様の協力も得てお好きな物を召し上がっていただく事もあります。栄養バランスの整ったメニューでの提供や、食事量・水分量の記録をして食事形態や調理方法を検討しながら支援しています			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は声掛けし見守り、時には仕上げをしています 自己にて難しい方には、歯磨きの介助やスポンジやシートを使い、口腔内の清潔を実施しています また、職員は訪問歯科による指導を受け、口腔ケアを行っております	洗面台は可動式で、自分で歯磨きが出来る人には声掛けし、磨き残しがないか確認している。介助が必要な人には職員がサポートしている。職員は、毎月、訪問歯科による指導を受け、利用者の口腔内ケアの清潔保持に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握しています 尿意があまりない利用者様にはは早めの声掛けや誘導をしています 排泄の際の立ち上がりや、脱着等出来る所はやって頂いています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に対して「入りたくない」とおっしゃる利用者様には、「入ろうかね」のタイミングを声掛けしながら待ち、入浴して頂いた後に「気持ち良かった」と仰っていただくなど、個々に応じた支援をしています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体調に合わせて休息をとっていただけるよう、日中と夜間のリズムをつけて安眠に繋がるよう支援しています 安心して入眠されるよう、心配な事や話をされたい事をお聞きして穏やかな時間を作っています		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は医療ファイルを確認し、看護師による配薬チェック、服薬時には日付・氏名・時間・錠数等確認、飲み込み迄見守る事を徹底しています また服薬後には空袋を再度確認し、何重にもチェックしています	利用者の薬は薬剤師から届けられ、看護師が説明を受けて、指定の場所に保管している。服薬時は職員が確認及び見守りを行ないながら、誤薬や飲み残しを防止している。薬の変更があった場合は、利用者の変化に注視し、管理者と看護師に報告している。	職員は、服薬支援時の事故防止に努めているが、ヒヤリハット報告事例に、落薬、誤薬が見受けられる。再度、服薬の作業手順等を検証し、適切な服薬支援に取り組まれない。
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえ、テーブル拭き、食器の片づけ等、出来る方にはお願いしています お誕生日会や季節に合ったおやつなどの提供で楽しんでいただいています	歌や体操、塗り絵など、好きな事を楽しんで出来るよう支援している。また、個々の残存機能に合わせ、日常の手作業や食事の手伝い等、役割を持って関わられるよう支援している。職員が労いの言葉かけをする事で、張り合いにつなげ、利用者の笑顔を引き出している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換・体力向上の為近所を散歩し、地元の住民の方との触れ合いを持って頂いています お正月にはどんど焼きに参加し、町内の行事に参加して頂き コロナ等の感染が落ち着いた時には、家族様との外出も支援しています	天気の良い日には、近くのグラウンドまで散歩したり、周辺住宅の庭の花を眺めている。時には庭の中まで見学の誘いもあり、利用者も外出を楽しんでいる。家族と一緒に買い物や食事に出かける人もある。季節の花見へは、数人ずつに分けて、事業所の車で楽しんでいる。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にお預かりしているお小遣いの中から、パジャマや身の回りの必要な品をスタッフと話し合い、ご家族に連絡しながら購入しています 現在は利用者様がご自分で所持されるのは難しい状況です		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からのお手紙等はスタッフが読み上げさせて頂いたり、スマホ等で連絡されたりしています 毎月出来るだけご本人に書いていただく絵手紙を、家族様に送らせていただいています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電灯はその時の精神状態に合わせて変えたり、室温・陽射しにも配慮しています 壁面に季節折々の絵や小物等を貼り、季節感を楽しんでいただいています クリスマスツリー飾りも利用者様と一緒に作り、お正月には書初めも行いました	共用スペースの温湿度管理を適切に行い、快適な環境作りに努めている。季節の作品を展示し、今日の日付けがわかる表示がある。玄関には靴の着脱用の椅子を設置している。介護用品保管の倉庫がなく、脱衣室も広くはないが、家庭的な雰囲気でも過ごせる職員の工夫がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大きなソファを置き、自由に会話を楽しんでいただいています 時々1階と2階の行き来をすることで、気分転換をしていただいています 疲労が見られる時には、居室にて安んじていただいています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規の利用者様には、好みの家具をお持ちいただいたり、ご家族の写真を持ってきていただいたりしています 身の回りの物は、できるだけ使い慣れた物を持って来ていただいています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台が上下可動式、浴室の手摺りなどで一人一人に対応でき、清潔の自立に繋がっています 居室の入り口に名前のプレートと写真等を飾る事により、ご自分のお部屋をわかりやすくしています		